

## 第30回ISOE運営委員会議事概要

1. 日時：令和2年12月9日（水）20:00～24:00（日本時間）  
令和2年12月10日（木）20:00～23:30（日本時間）
2. 参加者：38名（ISOE技術センター事務局；アジア（ATC）・欧州（ETC）・北米（NATC）及び国際原子力機関（IAEATC）、フィンランド、フランス、オランダ、ドイツ、スロベニア、スウェーデン、カナダ、英国、米国、日本（電力会社、規制機関）、およびNEA事務局）  
（全員ウェブ会議での参加）
3. 内容
  - ・ ISOE 運営会合議長、及び NEA と IAEA 事務局より冒頭挨拶があった。
  - ・ 前回 MB（2019 年北京開催）の議事録が承認された。
  - ・ ETC より、2020 年の ISOE 活動の概要が紹介された。今年度においては、各 TC により実施されているシンポジウムやベンチマーク等が、ほとんど延期（一部ウェブで開催）になったことなどが報告された。データ入力やカントリーレポートの収集状態も紹介された。
  - ・ PI（Performance Indicator）に基づいて、各 TC の活動状況が NEA より報告された。ATC に関しては、日韓情報交換会を開催予定であることが報告された。
  - ・ NATC 事務局について、現在の「イリノイ大学」から「電力研究所（EPRI）」に移行する案について議論が行われた。まず EPRI より、EPRI としてどのような活動が可能か（データ収集の方法など）についてや、放射線防護分野における過去の実績や電力事業者との関係についての発表があった。続いて、現在の NATC 事務局より、データ収集等に関する過去の実績や、改善案に関する発表があった。その後、参加者全体で、現存のデータの取り扱いに方法やその重要性などについての議論が行われた。なお今後については、メールでのさらなる議論を通して、決議をする際には MB の半分以上が投票してその 2/3 の賛成が必要であることが示された。また、投票前に、NATC の参加メンバー（電力事業者および規制機関）に NEA からレターを出して意見を収集する案も提案された。
  - ・ 各 TC の予算に関する議論については、時間の都合上、翌日に持ち越された。
  - ・ 以下の国々について、カントリーレポートが行われた。  
日本、フィンランド、フランス、オランダ、ドイツ、スロベニア、スウェーデン、カナダ、英国、米国  
（なお中国と韓国とメキシコについては、PPT 資料は提出していたものの、発表者

が会議に接続していなかったため、口頭発表は省略された)

- WGDECOM (廃止措置ワーキンググループ) の活動概要が紹介された。
- 各TCの予算実績 (2020年) 及び予算案 (2021年) についての議論が行われた。ATC に関しては、CNSC (カナダ原子力安全委員会) より「2020年に関して、どのような会議が行われ経費が発生したのか」という質問がチャットであったため、「日韓情報交換会を実施する予定で、通訳などの経費が発生する」旨を説明し、了承を得られた。
- ETCより、2021年のISOE活動計画案が紹介された。
- 今後の活動計画と議長等について議論が行われた。2021・2022年の議長については、NATCのB.Boyer氏が任命されることとなった。次期議長 (2023・2024年) についてはATCからの選出となるが、未だにノミネーションがないことが指摘され、Boyer氏の任期中に候補を選出することが望まれると指摘された。

以上